

担当者： 建部 修見 (産総研)

AREA	DATA
内容 状況	現状でファイル転送、複製管理、永続的データ管理、データベースアクセスグリッドサービスのグループが存在する。ファイル転送ではGridFTPの仕様書がようやく一段落した。複製管理は、グリッドサービス仕様書作成のためのWGの提案がなされた。永続的データ管理はほぼ必要条件の書類が出来ており、終了間際。データベースアクセスの仕様書は、ANLの Steve Tueckeも議論に加わり順調である。
終了 Group	GridFTP WGはGridFTPのproposed standardを1月に提出する予定であり、次回のGGF7では開催されない。
新設 Group	今回新設グループはないが、OGSI Data Replication Services WGの提案がData Replication RGでいきなり行われた。BoFをスキップしてWGにしたいということで、ミーティング中に署名を集めていた。
今後	それぞれのグループは順調に進んでいる。
所感	今後、日本からもWGの提案が期待される。

AREA名: DATA

グループ名		内容
W G	GridFTP	プロトコル仕様書ver1.0に関する議論が行われた。
	Data Access and Integration (DAIS)	既存のDBMSをGrid環境で使うための規格の制定を目的とする。今回はOGSAに基づいたI/Fの規格案が提案、議論された。
R G	Data replication	局所複製カタログ(Local Replica Catalog)グリッドサービス仕様書に関する発表がなされ、OGSI Data Replication Services WGに関する憲章の提案がいきなりなされた。ほかは研究報告。
	Persistent archives	必要条件の書類の検討。必要条件の書類には、アーカイバ、データグリッド側の言葉の説明も含まれる。
	Grid High-Performance Networking	今回はなし
B O F	Data transport RG	RGとなるべく二度目の組織ミーティング。主に、憲章に関する議論が行われた。

担当者： 建部 修見 (産総研)

グループ	GridFTP WG
目的	GridFTPのプロトコル仕様書の作成
状況	プロトコル仕様書ver1.0を1月までに提出し、GGF7までには終了する。
進捗	プロトコル仕様書ver1.0に関する議論が行われた。書類に関する議論では、セキュリティセクション、実装ノートの追加など。
今後	次回のGGF7までにはproposed standardのGGF書類を提出し終了する。次回ではWGは開催されない。これからはstandardになるべく、GGF書類プロセスにのっていくことになる。複数必要となる参照実装は、少なくともGlobus、FNALのものがあり、その他にもKISTIなど開発予定のものがある。
参加者数	25人程度
所感	GGF初のproposed standardであり、そういう意味でもいろいろ注目されている。

- 現在のプロトコルに関する懸案として、SPORなどでホストが100ある場合でも1行で表されるため、複数行のプロトコル拡張が必要かもしれない。実装上の問題ともいえるが、バッファサイズの管理などあまり長いコマンドは好ましくない。
- ERETにおいてファイル名を指定するが、シミュレーション結果の転送などメモリから直接転送するなどの要求を満たすため、opaqueな指定を可能とするか？
- 2.4節のEBLOCKのところは重要なので、reviewが必要である。

担当者： 荒木 拓也 (NEC)

グループ	DAIS (Database Access & Integration Services)
目的	既存のDBMSをGrid環境で使うための規格の制定を目的とする。
状況	UK e-Science (+ Oracle, IBM)によるOGSA-DAIプロジェクトが主導的立場をとる。 GGF4, 5において、既存のプロジェクトの紹介や要求仕様、XML DBアクセス用の規格案等、数多くの文書が提出されていた。
進捗	GGF6では、要求仕様文書の更新と、既存のデータベースをOGSAのGrid Serviceとして見せる規格の提案があった。 この規格案では、複数の種類(RDB, XML, Object)のデータベースを扱うため、queryやupdateのための命令文をそのままの形で送るアプローチを取っている。また、要求者以外へのデータの送信や、結果を部分的に送るなどの機能をサポートする。
今後	Bugzillaでの議論の管理、およびデモ可能な実装を作成する。
参加者数	30人程度
所感	提案された規格案は良くできたものののように思われる。実装が出てくれば、普及するのではないだろうか。

担当者： 建部 修見 (産総研)

グループ	Data Replication RG
目的	グリッドにおけるデータ複製に関する議論をすること、共同研究のためのフォーラムとなること
状況	憲章の制定。さまざまな研究報告。新規WGを作ろうとしている。
進捗	憲章の文章に関する議論は行われなかった。局所複製カタログ(Local Replica Catalog)グリッドサービス仕様書に関する発表がなされた。と、同時にOGSI Data Replication Services WGに関する憲章の提案がなされた。ほかは研究報告であり、LBLのStorage Resource Managementを利用したグリッドファイル複製、LHC計算グリッドにおける複製管理の報告がなされた。
今後	OGSI Data Replication Services WGに関してはBoFをやらずにGGF7でWGを開催し、GGF8で局所複製カタロググリッドサービス仕様書を提出するスケジュールとのこと。BoFをスキップことに関して署名を集めた。
参加者数	40人程度
所感	GGFは年に3回なので、はやく仕様書を提出するためにはBoFのスキップもやむなしと思われる。というか、前回のPlenaryでGGF ChairのCharlie Catlettは全ての条件が揃えばBoFをしなくても最短で2時間あれば新規WGが結成できるといっていた。

- 研究発表は以下。
 - Grid File Replication using Storage Resource Management
Alex Sim
<http://sdm.lbl.gov/srm>
 - Replica Management in the LHC Computing Grid
Peter Z. Kunszt (CERN, EU DataGrid)
 - LCG Requirements, HEPCAL document
<http://lcg.web.cern.ch/LCG/SC2/RTAG4/finalreport.doc>
 - <http://cern.ch/grid-data-management/metadata/>
 - <http://cern.ch/grid-data-management/replica-location-service/edg-rls/>

担当者： 建部 修見 (産総研)

グループ	Persistent Archives RG
目的	永続的なデータ保存のためのデータグリッドにおける必要条件、アーキテクチャを定める。アーカイバルコミュニティとデータグリッドコミュニティの架け橋。
状況	必要条件の書類の検討。必要条件の書類には、アーカイバ、データグリッド双方の言葉の説明も含まれる。
進捗	大部分の時間がRGのイントロダクションに費やされてしまった。書類的にはほぼ問題ないレベルと思われるが、若干のボキャブラリの説明が追加される。
今後	今回のミーティングでは出なかったが、そろそろGGF文書として提出するはずである。
参加者数	25人程度
所感	アーカイバルコミュニティで使われている言葉、必要な機能をデータグリッドで提供することが趣旨。

担当者： 建部 修見 (産総研)

グループ	Data Transport RG (BoF)
目的	広域でのsecure, robust, high-speed なデータ転送について、標準化を進めるためのフォーラムを提供する。このRGを母体として多くの人が興味を持つ事柄については標準化のためのWGが作られていくことを想定。
状況	RGを作るための二度目の組織ミーティング。コチェア、セクレタリ、および憲章に関する議論。
進捗	憲章に関する議論が行われた。Secure, robust, and high-speedとなっていたものを、それらの組合せと変更したり、憲章に具体的にあげられていた多くの検討内容に関して修正が加えられた。
今後	コチェア、セクレタリの選出に関してはメーリングリスト(datatransport-rg@gridforum.org)により議論する。
参加者数	20人程度
所感	Grid High-Performance Networking RGがなくなり、こちらが議論の場になりそうな感じになっている。標準化フォーラムを提供するとはいっても、それは単に研究発表の場というわけではないため、RGの運営の仕方、議論の進め方が問われている。